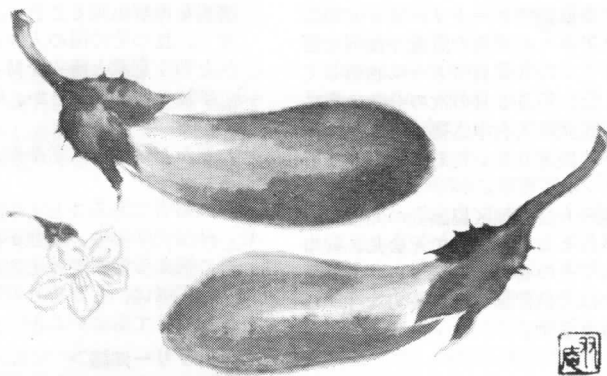




会報



THE ROTARY CLUB 鶴岡ロータリークラブ
OF TSURUOKA

齋藤得四郎氏絵

会報はご家族みんなで読みましょう

第676回例会 1972.10.31 (火) 曇 No.17

例会日 火曜日 12時30分
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひ さ ご や
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
会長 阿部 囊 幹事 市川輝雄

Let's Take A New Look!

「もう一度 見直そう」

■出席報告

本日の出席
会 員 数 63名
出 席 数 50名
出 席 率 79.37%

欠 席 者

阿宗君、安藤君、早坂(徳)君、平田君、
今野君、金井君、青山君、三井(徹)君、
三浦君、廖君、齋藤(信)君、篠原君、佐
々木君

前回の出席

前回出席率 74.60%
修正出席数 54名
確定出席率 85.71%

マークアップ

阿宗君一新庄RC
佐々木君、高橋君一酒田RC
安藤君、五十嵐(伊)君、黒谷君
一鶴岡西RC

■ビジター 板垣弘彦君一村上RC

■ロータリーソング 「手に手つないで」

■会長報告

○ローターアクト設立準備委員会より

10月25日青年センターでローターアクトクラブ設立準備会が会員予定者をまじえて開催されました。この辺でローターアクトクラブの結成にふみきる前提でロータリークラブのこと、ローターアクトの規則の意義や細則などロータリークラブの各委員の方々に説明していただきました。11月6日の次の会合の場に会員予定者が正式に入会申込書に署名し提出してもらおうと段どりをいたしてまいりました。

○来年度の地区大会、地区協議会の開催が当鶴岡で開催されることを前提で元会長、幹事現役員参集してその心構えを統一いたしました。そのせつは会員皆様の一致協力を今からお願ひしておきます。

■幹事報告

○会報到着

石巻RC、八幡RC

○年次大会へのおさそい

RI 366地区年次大会

48.3.3~4 大阪西RCがホストクラブ会場 中之島フェスバルホール
予約登録受付中

■ニコニコボックス

阿部公一君 病氣全快により 今後出席率
100%を目標に頑張るとのこと
佐藤順治君 ご息女 ご結婚 おめでとう

▷親睦委員会報告 高橋親善委員長

クリスマス家族会は12月18日(月)産業会館で開催する予定です。

▷ロータリー情報 張情報委員長

ロータリー財団学生の選考の注意は

1. 経済状態に関係なく
2. 人種に関係なく
3. 宗教に関係なく
4. 専ら資格にのみ基づいて行なうのである

ロータリー財団奨学金学生の資格は何にか

1. 強い潜在性指導力の満足な証拠を与える人格的記録を持つこと
2. 且つ学究的記録を持つこと
3. 国際理解、親善及び平和の増進に直接関係を持ち、国内及び国外の総ての活動に完全であり
4. 且つ誠意ある関心を持つこと
5. 自国から他国への親善使節となり

6. 且つそれらの国を自国に説明することが出来ること

7. 勉強する国の歴史、文化、経済、地理等々に興味を有すること

8. 勉強する学校用の言葉を知ること、講義を理解出来ること、クラブで話しが出来て、且つその国の人々と話す目的で、それを習う意欲と能力を持っていること

9. 学校の始まる前とか、時期、年齢の制限がある

10. 選んだ学校の入学条件、学業成績を考える

11. 未婚者であること

12. 外国で学年中、勉強が続けられ、且つ旅行に堪える健康の持主であること

13. 志願者は、それぞれの国に原籍を持つ市民でなくてもよいこと

<ロータリー知識>

ト 「友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞う」この素朴な友愛こそロータリーの基本である。この友愛を増進するための委員会は次の4種に分かれる。

1. 「出席」を奨励したり

2. 「親睦」会を催したり、大会や例会に「フェローシップ」の襷をかけて接待したり

3. 「プログラム」は例会を面白くするために卓話者をさがしたり

4. 「会報」を興味深く且つ有益ならしめるために会報委員の活動

ツ 連がりを自他の間に渡して互いに啓発し合うための我等は広報、情報、雑誌の3委員会をもつ。

広報はクラブ外の社会、報道機関、学校等にロータリーを宣伝し、情報はクラブ内で指針指令、注意や警戒事項、諸委員会のニュースなどを伝える。雑誌を読むことによって、全国及び世界のロータリー情報を知り啓発せられ、引立てられる。

ネ 年々にクラブ活動の方向や形があれども奉仕の誠の変ることなし。

ケ 欠席するは一応友愛の欠如と見做される故事甚だ重大である。出席率は友愛度を示すから。欠席の場合は種々理由はあろうけれど、簡単に欠席すると慣性になるから自戒自肅してもらおうより外ない。病気の場合の長期欠席については出席委員会と相談ありたい。

キ 協議会のアメリカ名

一つの協議会に対し、フォーラムとアッセンブリーが使い分けられ、間違われ易い。フォーラムとは、広く一般に自由に協議、討議するのを云う。例会で全員で相談する時、インターシティフォーラム、炉辺談話などは是れなり。

アッセンブリーとは特定の人、例えば会長とか役員だけ、委員長だけにてなど協議するを云う。しかし表面は特定人に限っている、実際は特定外多数が出ている場合は両者混同する。

(青森RC いろはしおりより)

▷「インターシティーゼネラルフォーラムでモデレータの役割を果たした報告」

小池 繁治 君

10月22日酒田市で当クラブより17名出席して非常に活発な討論会でした。フォーラムでするので結論は何もありません。テーマが出されそのテーマを中心として色々討論がなされるわけです。

私は、はじめてモデレーターをやらせていただきましたが、なってみると非常に楽なんです。皆さんから話をさせていただき、如何に多く話していただくかの役割でほとんど自分の意見を言わないのが良いモデレーターなのだそうです。こちらの方がフォーラムに出て討論するよりも楽しいかな等思っています。

私がモデレーターをやりましたのはクラブ奉仕B部門で「広報活動を如何に具体化するか」のテーマでした。私その時発言が出来なかったのですが「広報の活動」と云う事はPublic Relationsの訳なわけです。広報という事自体がきわめて新しい

≒ Communication”とか≒ Information”とか云われ、おそらく以前日本にはこの言葉はなかったと思います。

ではどうしてこのテーマが出されたかを考えてみますと「一般社会と云うか会員以外の方がロータリーを正しく理解していただくためには正しい報道をしなればいけない」と云うことなのだと思います。パブリック・リレーションズですから「公やけに対する関連」と云うことで各クラブともかなりの広報活動を夫々具体的に行っておるようです。私が考えますに、案外日本人とりわけ鶴岡の土地の方々は「公やけにする」と云うことに

対して抵抗を持つんじゃないか？ 私自身抵抗があります。ロータリークラブの活動は相当高過な高度な思想だと思いますがそれを推進するためには、やはり一般の方々にも正しい理解をしていただかないと広報としての活動はあり得ない。とにかく広報はやらなくてはいけないとなっているんだと思います。

Communication 伝達と云うことと

Information 情報とは 夫々違っており、それが全部総括されたものが広報でなければいけないと思います。ここに一つのテーマが仏教の禅僧や神秘的な宗教家などに提示され論議されているそうです。「木が倒れた。あたりにも誰もきく人はいない。そこに果たして音があったか、どうか」我々の住んでいる現代社会に於ては私は「音がない」と云うのが正しいのではないかと思います。木が倒れたことによりたしかに音波は発生しますが、きく人がいなくなれば音にはならない。

Communication 伝達はあくまでも知覚であって只単に一方的に伝わる音波さえあればつたわるものではないと云うことだと思います。

今一方の Information 情報はあくまでも理論的なもので知覚ではない。理論上で理解する～例えば、どの列車がこんでいるか、すいているか、まだのれるかどうか～等はたしかに情報です。知覚での判断でなく理論上判断することです。

では伝達でもない情報でもない Public Relations は一体何んなのか？ そしてこれとロータリー活動の広報と結び付けると非常にむずかしくなってきました。

何はともあれ、最初なにかが起る。行動でも何んでも良い。何にかの事実が起ってそれが良く、正しく伝達されてそれが広報になるんじゃないか。だからロータリーの活動としてもなにかの行動がとにかく先になされなければいけない。それを如何に伝達するかが正しい広報なんであって、ないものがあるように又あるものをないように伝達するのは決して広報ではない。

だからロータリーで良い広報をしようとするにはロータリーの活動がより良くなければならないことになります。

古いクラブはともするとマンネリ化の傾向が見られ新しいクラブの方々が積極的に広報の活動がなされているように感じられました

た。

私のモデレーター部門ではありませんがクラブ奉仕A部門の「会員増強について」で各クラブとも共通の悩みが出ておりました。「質より量か、量より質か」、「人員さえ多く集めればそれで良いのか」、「一人一人の自己啓発、クラブ内の自己啓発に力を入れてそのクラブ自体のレベルを向上し増強させて行くべきか」を問題としていました。

RIの方針としては絶対的な数が増さないかぎり大きくならないのだと云っております。職業奉仕部門「職業のモラルを高めるにはどうすれば良いか」これも非常に大きな問題でした。事例なども出ておりましたが従業員の親睦会をやるとか、四ツのテストを広めて行くとか表われた面はそんな所でした。

只私見するに、職業のモラルを高めるとはロータリアン自体の職業、自己啓発以外ないのではないかと、それを根本として広げて行くのが本当ではないかと思いますが非常にむずかしいことと思います。ロータリーでは職業奉仕を **Vocational service** と云っております。**Vocational**とは勿論職業と云う意味はありますがむしろ適正とか才能とか天職(神の召し)と云った言葉の方が強いと思います。ロータリーの云う職業は天職、使命、**mission**に近いと思います。普通我々が云う職業は仕事と考えてしまいますがロータリーの云う職業奉仕は**Vocational service**なんで、やはり天職なんだ、自分の才能をその職業にどのようにあてはめるかが根本だと思えます。

私ロータリーのことは未だわからず正しいかどうか分かりませんが、いずれにしてもロータリーはバランスの上に立っているのではないかと思います。一つの奉仕活動だけが先行するとバランスがくずれぬ。人員の構成にしても一つの職業からたくさんの人を入れたい。これもクラブを運営してゆくためにバランスをとってやれと云うことだと思います。ロータリーだけでなく世の中のすべてがバランスを如何に良くとるか云うことだと思います。雑誌からの知識ですが、人類が地球上に発生してから何億年かたっております。このなかで地球のエネルギーの消費をみると、今より100年前の間で消費された地球エネルギーの量がそれ以前の何億年間に消費したエネルギーの量よりも数倍の量を消費しているのだそうです。そう云う意味で人間の手で地球のバランスをくずしつつあるのではないかと思います。

結びになりますが、いずれのクラブも一生

懸命にやっているようです。日頃ロータリーのことを常々考えているわけではありませんがインターシティーゼネラルフォーラムに出るとその時だけでもせめて色々な学習をやる時間を与えてくれる非常に有難い機会だと思っております。今回のフォーラムの中で非常に印象に残る言葉をきいてまいりました。

「ロータリークラブに入って何が良かったか」ときかれた時に「私は人の話をきくことを知りました」と答えられた方がおられたそうです。

私もぜひ人の話を良くきく人間になりたいと思って帰ってまいりました。

以上 報告いたします。

▷ 編集後記 ◁

小池繁治君の報告の中で「私は人の話をきくことを知りました」の言葉が報告されたがこれは早坂ガバナーノミニーによりRI会長のヒックマン氏が云われた言葉と判明した。これは「あなたの過去においてロータリーの職業奉仕があなたの過去のキャリアにどういふ影響を及ぼしたか」の質問に対する答であったと云う。それは会長が自分の職場の中で組合活動が非常に盛んで、労使双方交渉を持つ時点で今迄は罵詈雑言を発しながらの交渉の場が多かった。しかし会長は、ロータリーのおかげで「人の話をきくこと」をおぼえたことで「自分が彼等組合員の云い分に十分に耳をかたむけると、彼等も又自分の云うことに耳をかたむけるようになった。そのことにより労使双方で円満な解決に達することが出来るようになった」と云う。非常に味わうべき言葉である。

早坂ガバナーノミニーは来年度地区分割がほぼ確定的となっている現況で、相当精力的に地区内フォーラム等に出席し、来るべきガバナー就任時にそなえて、ロータリー精神の昂揚やら自己啓発にむけ猛勉強中である。しかし本番は来年度であるのでバランスのとれた活躍を切に希望するものである。健康をそこねられたら大変だから。

早坂ガバナーノミニーは前述ヒックマン会長の言を引用され「私は自分が話をしたことはよく記憶しているが、他の人々が話すことに十分に耳をかたむけ記憶すること」を未だ会得していない。これから折にふれてこれが会得に努力し自己啓発をしたいと所信を述べられている。

我々鶴岡ロータリー会員はガバナー選出クラブとしての誇りと光栄を感ずるものである。この誇りと光栄をになつて権威あるロータリアンになるように！ バランスのとれたクラブ運営に！ 奉仕に！ 努力を結集したいものである。(文責田中)